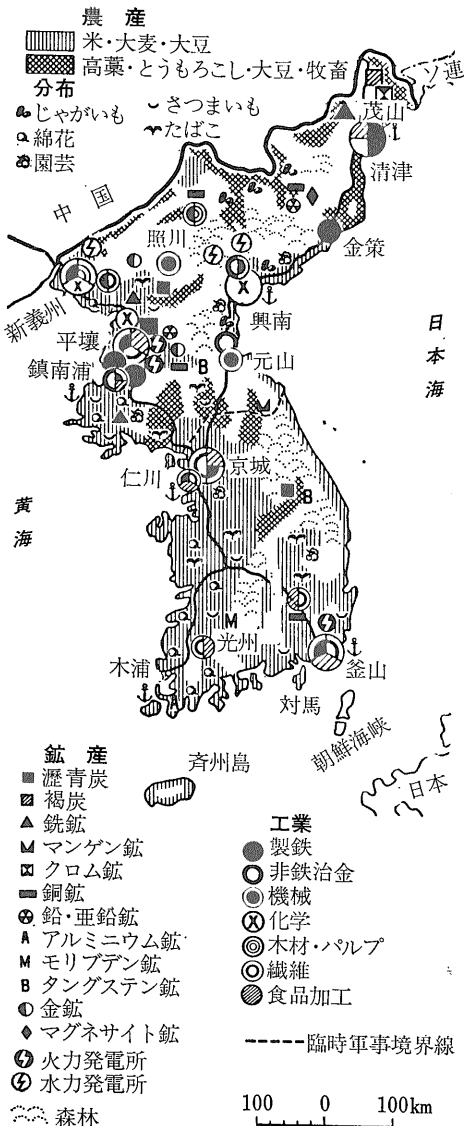


経済地理メモ - 社会主義国編 -

⑨ 北朝鮮

資料情報係
Information service section

国名	朝鮮民主主義人民共和国(조선민주주의인민공화국)
面積	12.1万km ²
人口	1,700万人
首都	ピョンヤン(平壤)



第1図 朝鮮半島経済地理図

経済地理的な位置. 北朝鮮は朝鮮半島の北半部を占め西は黄海 東は日本海に面している。北は中国 北東部はソビエトに接し 南は臨時軍事境界線をもって南朝鮮(韓国)と接している。北と北東は友好国 南は同一民族の非友好国と陸続き 東と西は公海に接するという位置が北朝鮮の経済を左右する大きな特徴となっている。

住民. 北朝鮮は単一民族国家で 住民はほぼ100%が朝鮮民族である。朝鮮民族はアルタイ話族に属する一独立人種である。人口は南西の大同江の流域と東部のせまい日本海沿岸低地に集中し 都市人口が全人口のほぼ1/2を占め 最大の都市が首都ピョンヤン(平壤)でその人口は約110万人である。

経済の一般的特徴. 1945年8月までの35年間は日本の植民地として典型的な植民地経済体制下にあった。それがソビエト軍の進駐によって大きく変わり 1948年9月の朝鮮民主主義人民共和国の成立とともに 社会主義経済に指向していった。しかし 4年間にわたったいわゆる“朝鮮戦争”によって産業の基盤は余すところなく破壊され 国土は荒廃し 人口は激減した。それからの経済の再建と新たな社会主義的経済の発展 ための国をあげての努力と社会主義諸国の援助の結果が現在の北朝鮮の経済の姿である。

朝鮮戦争後の経済再建の重点は食糧の自給と重工業の建設に向けられ 現在では食糧は完全に自給されているだけでなく 輸出も可能となり 重工業は国民総生産の1/4をこえるようになった。重工業では機械工業が第1位を占め とくにその工作機械の精度は経済相互援助会議加盟国中のトップにある。化学工業は一新され 繊維工業と食品工業も発展している。

鉱工業. 重工業はその豊富な 多様な天然資源に依拠して操業され 水力発電所網は濃密で 包蔵水力の利用率はわが国よりも高く 電力の主体はまだ水力発電にある。現在では電力の需要増大に豊富な石炭を利用することが関心の的となって ピョンヤンの2か所に大型石炭火力発電所が建設されたばかりである。

南西部と北東部に豊かな炭田が集中し いずれも鉄鉱山やクロム鉄鉱 タングステンなどの合金用金属資源 マグネサイトの鉱山に近く 鉄鋼産業の発展に貢献している。

北朝鮮の山地は 非鉄金属(銅 鉛 亜鉛) 希少金属(タングステン モリブデン) 軽金属(アルミニウム) 貴金属(金) 非金属(マグネサイト) それにマンガンを多量に埋蔵し 黒鉛も少なくない。非鉄冶金工場は海岸地帯のとくに大型水力発電所の近いところに配置されている。

機械工業は工業総生産の1/3以上(価格)を生産し その生産品の主なものは 鉱業機械 工作機械 電子計算機 発電機 ディーゼル機関車 トラック トラクター 船舶である。

化学工業は化学肥料と合成繊維の生産が主体で その生産量は国の大きさからみると 並はずれて大きい。

重要鉱物資源として全く産出しないのが石油と天然ガスである。その需要の一部分はソビエト 一部分は中国とリビアなどの輸入でまかなわれている。

運輸. 主要な輸送手段は鉄道で 国内貨物のおよそ90%が鉄道輸送されている。幹線はすべて電化された。しかし トラックによる貨物輸送量が年々伸びており とくに山間部への自動車輸送量の伸びがいちじるしい。

北朝鮮には 多くの港がある。海運は外国貿易上きわめて重要な働きをしている。

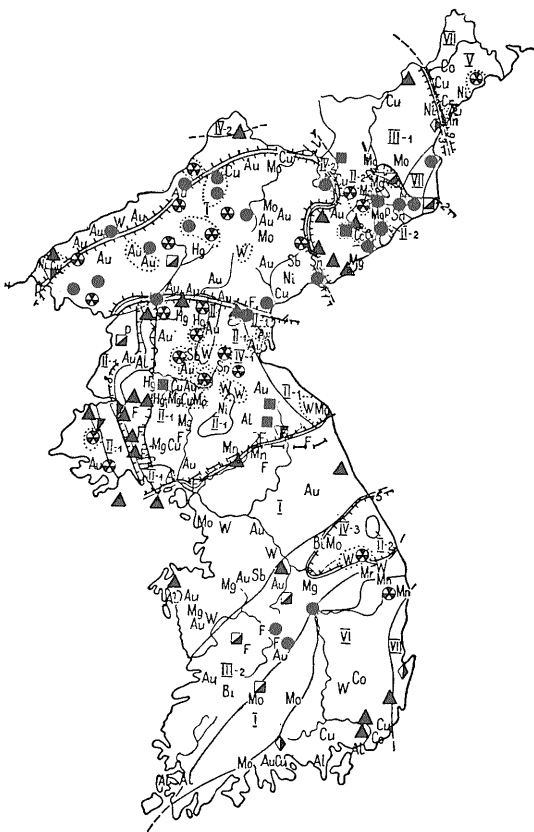
貿易. 外国貿易の大部分は社会主義国との間で占められ 貿易額(往復)の約40%がソビエト 約20%が中国を相手としている。その輸出品目は 非鉄冶金製品・鉱石精鉱・鉄鋼・鉄鋼加工品・工作機械・化学製品が主で 木材とパルプ 魚加工品 果実も少なくない。主な輸入品目は 自動車 工業原料 石油・石油製品 日用雑貨などである。とくに石油と石油製品の大量輸入や輸出国相手が経済相互援助会議加盟国に集中していることなどのため 外貨ドルが非常に少なく 西側諸国との貿易は伸びなやみである。

北朝鮮は複雑な国際環境のはざまの中にあつて まだ国連に加盟ができず 我が国との正式な国交関係もない。我が国との貿易は民間貿易の形で行われているが 日本政府の信用保証がなく 北朝鮮の外貨のいちじるしい不足も原因して大型商談が成立せず 今までの北朝鮮側の輸入超過分に対する支払い問題も民間ベースであるだけに簡単には解決できず 今でも尾をひいている。

我が国が北朝鮮からの輸入を期待する品目は チタン精鉱・銅精鉱・原料炭・黒鉛などの鉱物資源 木材・パルプや綿花など一次産品が主体であり 北朝鮮が我が国か

らの輸入を望んでいる品目は 何よりも大型プラントと各種の先端技術である。しかし 正式の国交がなく 北朝鮮側の外貨潤滑の現状では 貿易の発展は大きく望むべくもない。

1979年における我が国の北朝鮮との貿易総額は4億3588万ドル(我が国の対外貿易総額の0.2%) 北朝鮮への輸出は2億8385万ドル(我が国の対外輸出総額の0.3%) 北朝鮮からの輸入は1億5203万ドル(我が国の貿易輸入総額の0.14%)である。



▲-1; Mn-2; Cr-3; Ni-4; Co-5; W-6; Mo-7; Sn-8; Sb-9; Hg-10; Bi-11; Cu-12; ●-13; Au-14; AL-15; ■-16; P-17; ▼-18; F-19; Mg-20; □-21; ●-22; ◇-23; /-24; △-25; ○-26; /-27

第2図 朝鮮半島主要鉱物資源分布・構造地質区・鉱床生成区配列図, (K. B. Il'in, 1963)

- 1—23—鉱床
 1—鉄 2—マンガン 3—クロム 4—ニッケル
 5—コバルト 6—タングステン 7—モリブデン
 8—錫 9—アンチモン 10—水銀 11—ビスマス
 12—銅 13—鉛 亜鉛 銀 14—金 15—アルミニウム(明礬石 礬土頁岩) 16—硫化鉄 17—磷灰石
 18—重晶石 19—螢石 20—マグネサイト タルク
 石綿 21—金雲母 白雲母 22—黒鉛 23—カオリ
 ン 構造地質区(24) 鉱床生成区(25—27)は省略